

9.9.2 予測

(1) 予測内容

土地の改変(工事の実施)及び施設の存在(存在及び供用)が計画地周辺に生息する重要な動物の生息環境へ及ぼす影響について予測した。

(2) 予測方法

予測項目は、計画地の影響要因と各分類群の生態的特性を考慮して選定した。選定結果は表 9.9-22 に示すとおりである。予測地域は、調査地域のうち、動物の生息の特性を踏まえ、重要な種の生息環境が工事の実施及び施設の存在・供用により影響を受けるおそれがあると認められる地域とし、調査地域と同様とした。なお、工事の施工により直接改変を受ける範囲(改変範囲)は図 9.9-13 に示すとおりである。

表 9.9-22 動物の影響要因とその予測項目

影響要因		予測項目
工事の実施	土地の改変	・重要な動物(哺乳類、鳥類、両生類・爬虫類、昆虫類、魚類、底生動物)の生息環境への影響
存在及び供用	施設の存在	

予測対象時期は、動物の生息の特性を踏まえて重要な種の生息環境への影響を的確に把握できる時期として、各要因の影響が最大になる時期を検討した。予測対象時期は表 9.9-23 に示すとおりである。

表 9.9-23 動物の生息環境への影響要因とその予測対象時期

影響要因		予測対象時期
工事の実施	土地の改変	・工事による改変面積が最大となる時点
存在及び供用	施設の存在	・施設等の供用開始時点

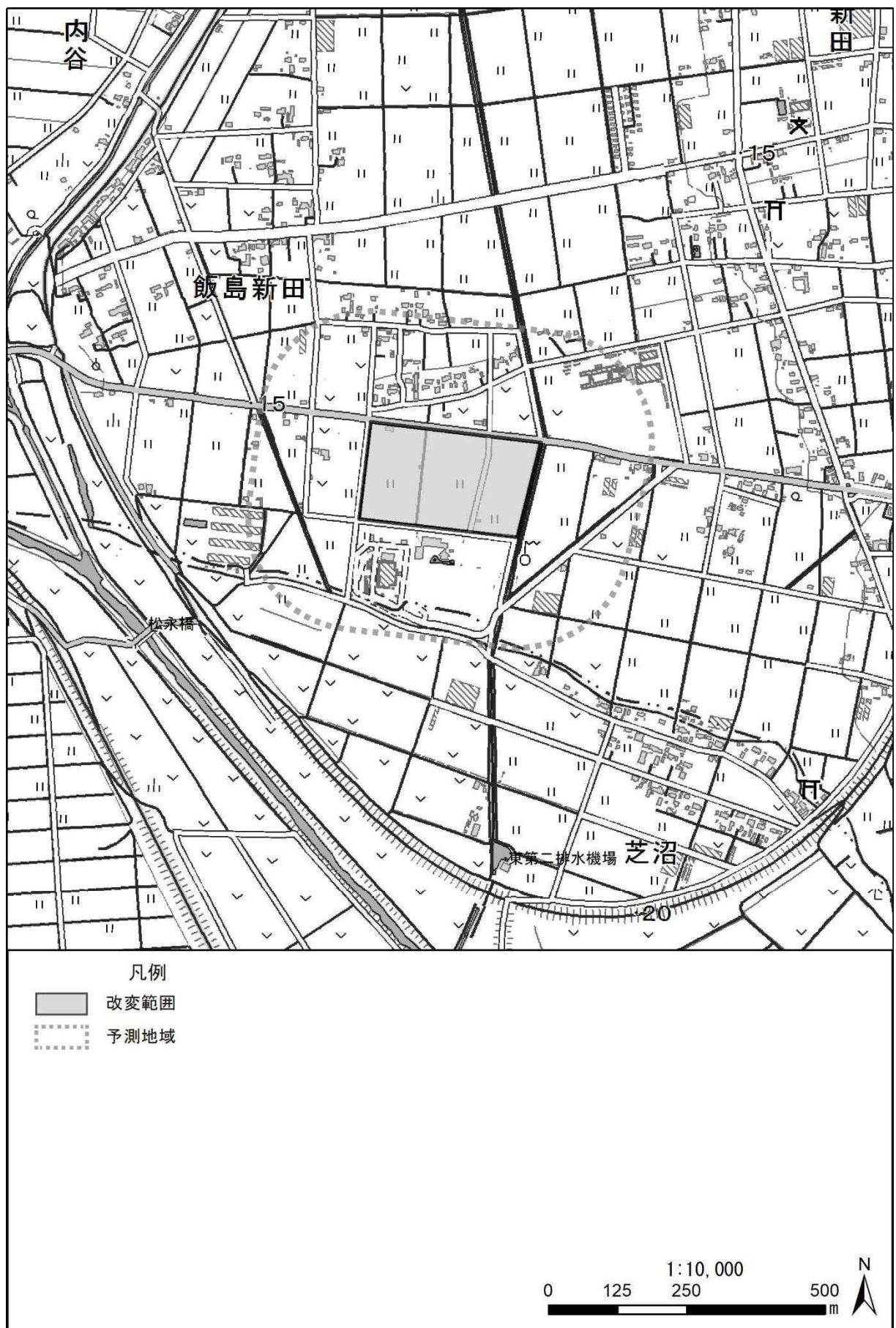


图 9.9-13 予測地域図(動物)

予測にあたっては、工事の実施、存在及び供用により環境が改変される状況（土地の改変範囲及び施設の形状・配置）と、現地調査で確認された重要な動物種の分布状況を重ね合わせ、また一般的な生態も考慮して、重要な動物の生息環境の消失・改変の影響の程度と内容を予測した。予測結果は影響の大きさの程度により「A:影響が生じる」、「B:影響が生じるおそれがある」、「C:影響は極めて小さい」、「D:影響はない」の4段階に区分した。予測の考え方は図 9.9-14 に示すとおりである。

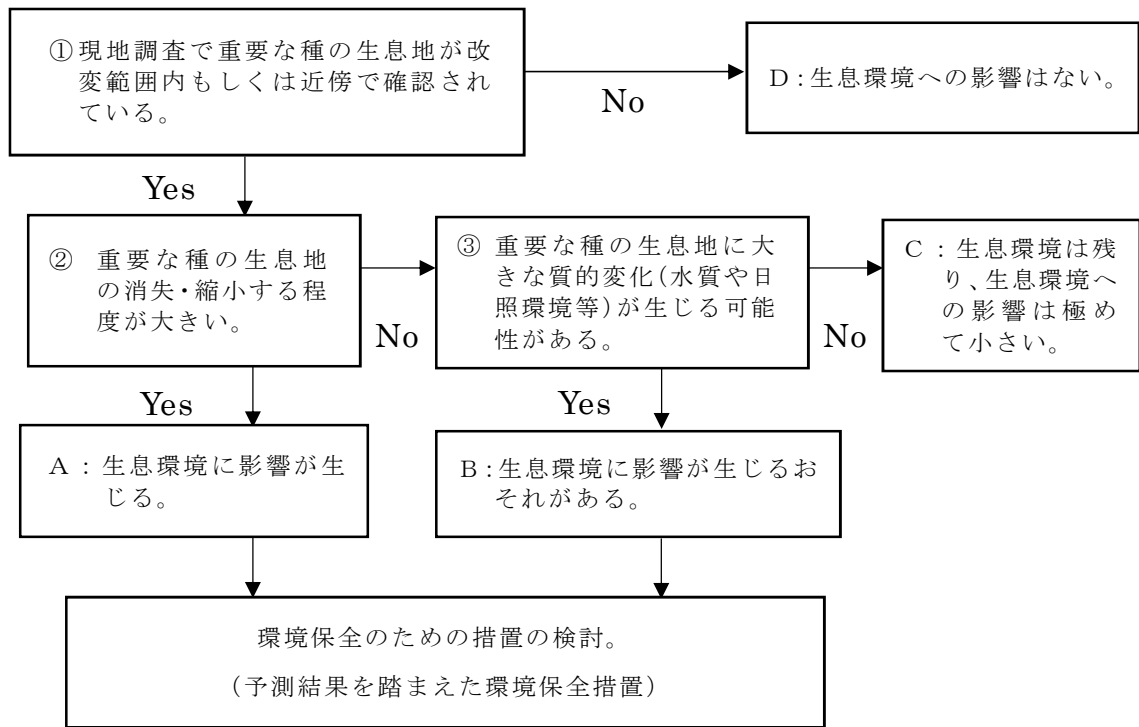


図 9.9-14 予測の考え方

(3) 予測結果

(a) 予測結果概要

重要な種に対する土地の改変及び施設の存在の影響予測結果の概要は表 9.9-24(1)～(2)に示すとおりである。

予測の結果、「影響を受ける(A)」と予測された種はトウキョウダルマガエル、エノキカイガラキジラミの 2 種、「影響を受けるおそれがある(B)」と予測された種はコガムシの 1 種である。

表 9.9-24(1) 重要な種の予測結果一覧

分類	種名	重要な種 選定根拠	確認例数		影響の程度 ^{注1)}	
			改変 区域内	改変 区域外	工事の実施 土地の改変	存在及び供用 施設の存在
鳥類	アマサギ	埼玉県:LP	0	12	C	C
	コサギ	埼玉県:NT2	0	1	C	C
	トビ	埼玉県:DD	1	3	C	C
	オオタカ	環境省:NT 埼玉県:VU	1	2	C	C
	ノスリ	埼玉県:NT2	2	5	C	C
	チュウヒ	種の保存:国内 環境省:EN 埼玉県:EN	0	1	C	C
	チョウゲンボウ	埼玉県:NT2	1	8	C	C
	タゲリ	埼玉県:NT2	0	2	C	C
	イソシギ	埼玉県:VU	0	1	C	C
	カッコウ	埼玉県:NT2	0	1	C	C
	カワセミ	埼玉県:RT(LP)	0	4	C	C
	オオヨシキリ	埼玉県:NT2	1	4	C	C
	ホオジロ	埼玉県:RT(NT2)	1	14	C	C
爬虫類	アオダイショウ	埼玉県:NT2	0	1	C	C
	ヒバカリ	埼玉県:NT1	0	1	C	C
	ヤマカガシ	埼玉県:NT1	2	5	C	C
両生類	トウキョウダルマガエル	環境省:NT 埼玉県:NT1	67	31	A	C
	ツチガエル	埼玉県:EN	0	1	C	C
	シュレーゲルアオガエル	埼玉県:NT2	0	1	C	C
昆虫類	スズムシ	埼玉県:RT(NT1)	0	2	C	C
	エノキカイガラキジラミ	環境省:NT	5	0	A	C
	ビロウドサシガメ	埼玉県:VU	1	1	C	C
	トゲサシガメ	埼玉県:NT1	0	2	C	C
	イネクロカメムシ	埼玉県:NT2	0	1	C	C
	アサマイチモンジ	埼玉県:NT2	0	3	C	C
	コガムシ	環境省:DD	5	15	C	B

表 9.9-24(2) 重要な種の予測結果一覧

分類	種名	重要な種 選定根拠	確認例数		影響の程度 ^{注1)}	
			変更 区域内	変更 区域外	工事の実施 土地の変更	存在及び供用 施設の存在
魚類	フナ属 (キンブナの場合)	環境省:VU VU 埼玉県:VU	0	8	C	C
	ドジョウ属 (ドジョウの場合)	環境省:NT	0	4	C	C
	ミナミメダカ	環境省:VU 埼玉県:NT2	0	65	C	C
	ジュズカケハゼ	環境省:NT	0	53	C	C
底生動物	ドブガイ属	埼玉県:NT2	0	2	C	C

注 1) 予測結果は、影響の大きさにより「影響が生じる(A)」、「影響が生じるおそれがある(B)」、「影響は極めて小さい(C)」、「影響はない(D)」の4段階に区分した。

【重要な種選定根拠】

文化財:「文化財保護法」(昭和 25 年法律第 214 号、文化庁)に基づく天然記念物、特別天然記念物
種の保存:「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成 4 年法律第 75 号、環境省)
により希少野生動植物種に指定された種
環境省:「環境省レッドリスト 2018」(平成 30 年 5 月 22 日、環境省報道発表資料)に選定された種
CR:絶滅危惧 I A 類 / EN:絶滅危惧 I B 類 / VU:絶滅危惧 II 類 / NT:準絶滅危惧種
DD:情報不足種 / LP:絶滅のおそれのある地域個体群
埼玉県:「埼玉県レッドデータブック 2018 動物編」(埼玉県、平成 30 年)
EX:絶滅 / EW:野生絶滅 / CR+EN:絶滅危惧 I 類 / CR:絶滅危惧 I A 類 / EN:絶滅危惧 I B 類
VU:絶滅危惧 II 類 / NT:準絶滅危惧 NT1:準絶滅危惧 1 型 / NT2:準絶滅危惧 2 型
DD:情報不足 / LP:地域個体群 / RT:地帯別危惧

(a) 各種の予測結果

重要な種ごとの予測結果は、表 9.9-25 に示すとおりである。

表 9.9-25 重要な種の予測結果(アマサギ)

項目		内容	
主な生息環境		水田、牧場、草地など。	
現地確認状況		主に水田及びその周辺で初夏に 12 例が確認された。	
予測結果	工事の実施 土地の 改変	調査地域周辺で確認されたアマサギは 12 例で、本事業による計画地内では確認されなかった。本種の主な生息環境は水田及びその周辺と考えられる。生息環境の一部が消失するものの、同様の環境は計画地周辺に十分に広がっており、生息地の縮小は限定的と考えられる。 工事中は、騒音・振動、濁水等の流入といった生息環境の質的变化が生じる可能性があるが、使用重機の配慮、適切な濁水・排水対策により影響は低減されること、周辺に同様の生息環境が広がっていることから、それらの影響は限定的と考えられる。 本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。	影響は極めて小さい(C)
	存在・ 供用	施設の 存在	計画地は、本種の生息環境の一部を改変する計画となっているが、周辺には同様の生息環境が十分に広がっていることから、生息環境は確保され、移動経路の分断も生じないと考えられる。本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。

確認位置

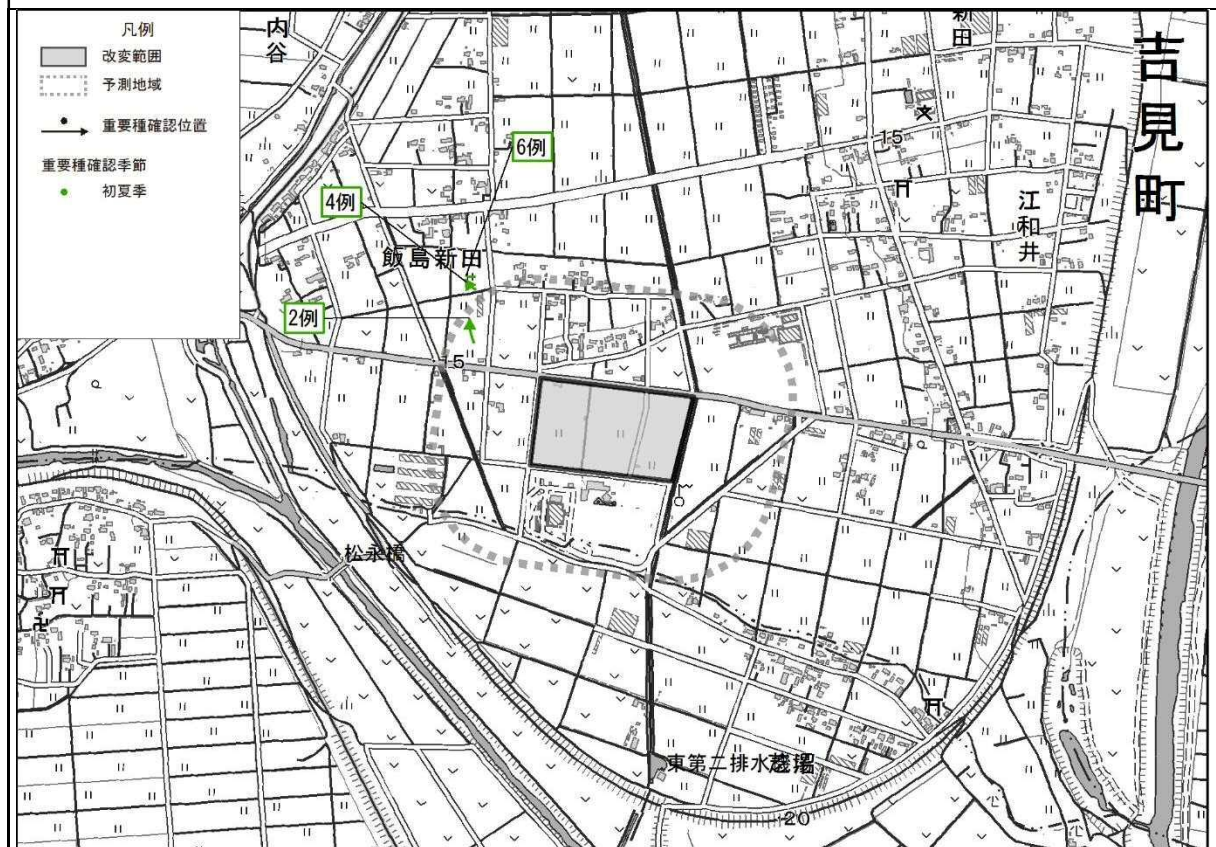


表 9.9-26 重要な種の予測結果(コサギ)

項目		内容		
主な生息環境		水田、河川、湖沼、干潟、湿地。		
現地確認状況		主に水田及びその周辺で初夏に1例が確認された。		
予測結果	工事の実施	土地の 改変	調査地域周辺で確認されたコサギは1例で、本事業による計画地内では確認されなかった。本種の主な生息環境は水田及びその周辺と考えられる。生息環境の一部が消失するものの、同様の環境は計画地周辺に十分に広がっており、生息地の縮小は限定的と考えられる。 工事中は、騒音・振動、濁水等の流入といった生息環境の質的变化が生じる可能性があるが、使用重機の配慮、適切な濁水・排水対策により影響は低減されること、周辺に同様の生息環境が広がっていることから、それらの影響は限定的と考えられる。 本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。	影響は極めて小さい(C)
	存在・供用	施設の 存在	計画地は、本種の生息環境の一部を改変する計画となっているが、周辺には同様の生息環境が十分に広がっていることから、生息環境は確保され、移動経路の分断も生じないと考えられる。本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。	影響は極めて小さい(C)

確認位置

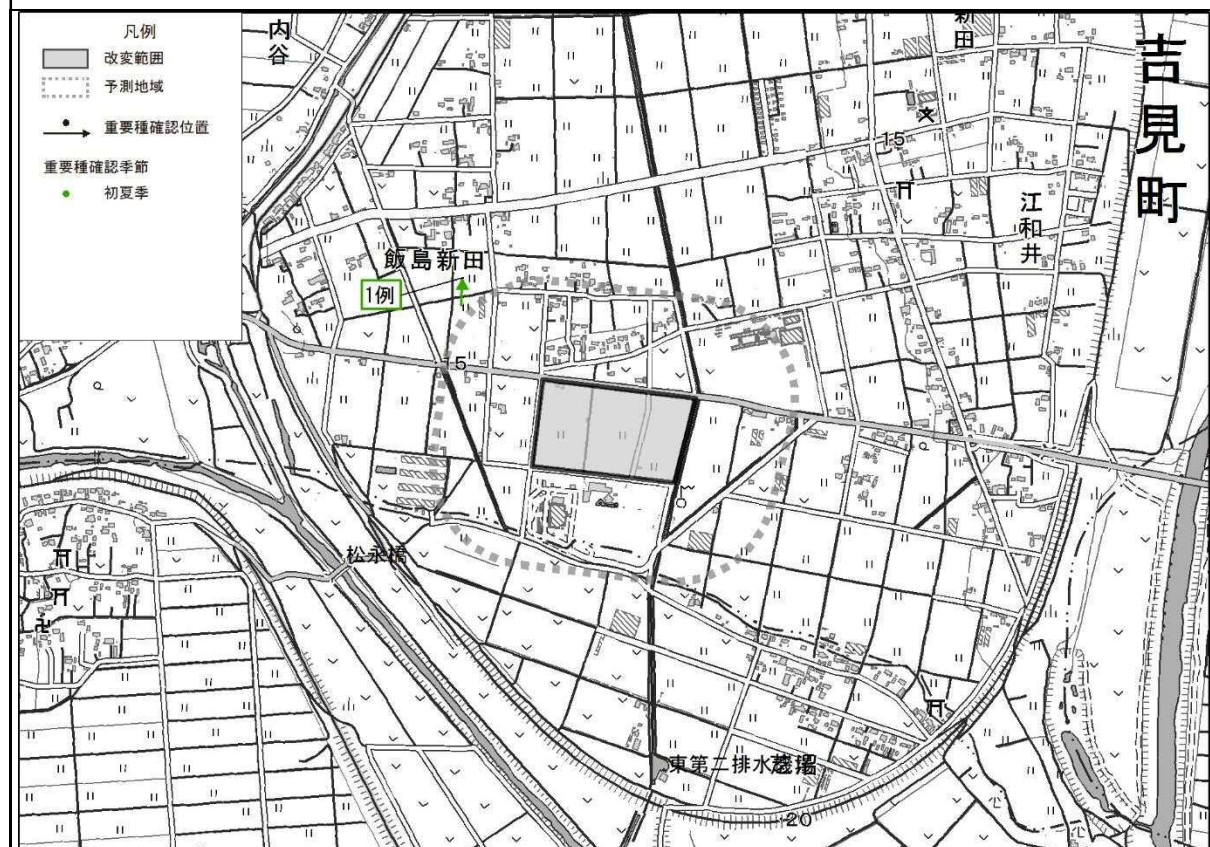


表 9.9-27 重要な種の予測結果(トビ)

項目		内容	
主な生息環境		平地から高山にかけて市街地、海岸、湖沼など幅広い場所。	
現地確認状況		調査地域上空で飛翔が確認された。初夏に1例、秋季に1例、冬季に1例、春季に1例が確認された。	
予測結果	工事の実施 土地の 改変	調査地域周辺で確認されたトビ4例のうち、本事業による計画地上空の飛翔が1例確認された。調査地域周辺に本種の営巣環境となる樹林地はないことから、本種は計画地周辺を採餌環境として利用していると考えられる。採餌環境の一部が消失するものの、同様の環境は計画地周辺に十分に広がっており、生息地の縮小は限定的と考えられる。 工事中は、騒音・振動といった生息環境の質的变化が生じる可能性があるが、使用重機の配慮により影響は低減されること、周辺に同様の生息環境が広がっていることから、それらの影響は限定的と考えられる。 本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。	影響は極めて小さい(C)
	存在・ 供用	施設の 存在	計画地は、本種の採餌環境の一部を改変する計画となっているが、周辺には同様の生息環境が十分に広がっていることから、生息環境は確保され、移動経路の分断も生じないと考えられる。本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。

確認位置

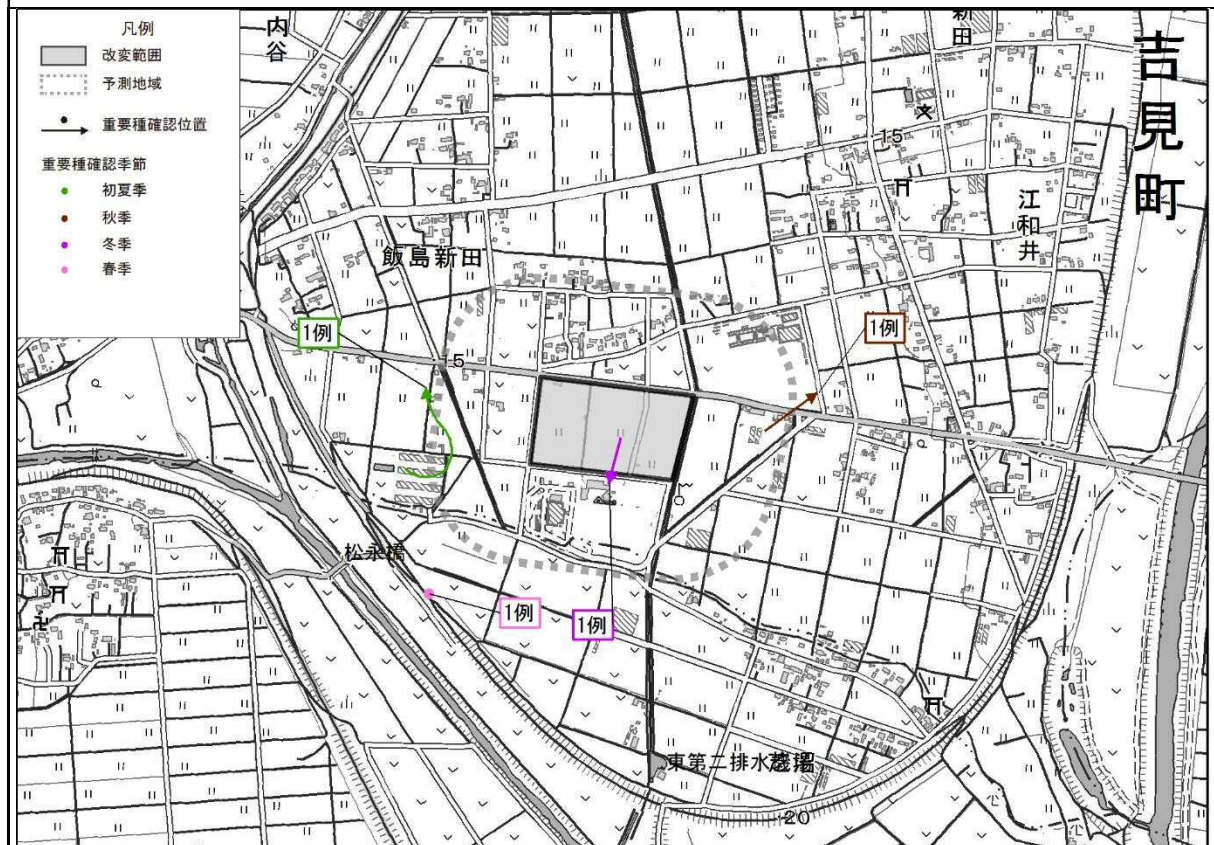


表 9.9-28 重要な種の予測結果(オオタカ)

項目		内容	
主な生息環境		平地から山地の林や農耕地など。	
現地確認状況		調査地域上空での飛翔、及び赤外線カメラにより採餌行動が確認された。初夏に1例、秋季に1例、春季に1例が確認された。	
予測結果	工事の実施 土地の変更	調査地域周辺で確認されたオオタカ3例のうち、本事業による計画地上空の飛翔が1例確認された。調査地域周辺に本種の営巣環境となる樹林地はないことから、本種は計画地周辺を採餌環境として利用していると考えられる。採餌環境の一部が消失するものの、同様の環境は計画地周辺に十分に広がっており、生息地の縮小は限定的と考えられる。工事中は、騒音・振動といった生息環境の質的变化が生じる可能性があるが、使用重機の配慮により影響は低減されること、周辺に同様の生息環境が広がっていることから、それらの影響は限定的と考えられる。本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。	影響は極めて小さい(C)
	存在・供用 施設の存在	計画地は、本種の採餌環境の一部を改変する計画となっているが、周辺には同様の生息環境が十分に広がっていることから、生息環境は確保され、移動経路の分断も生じないと考えられる。本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。	影響は極めて小さい(C)

確認位置

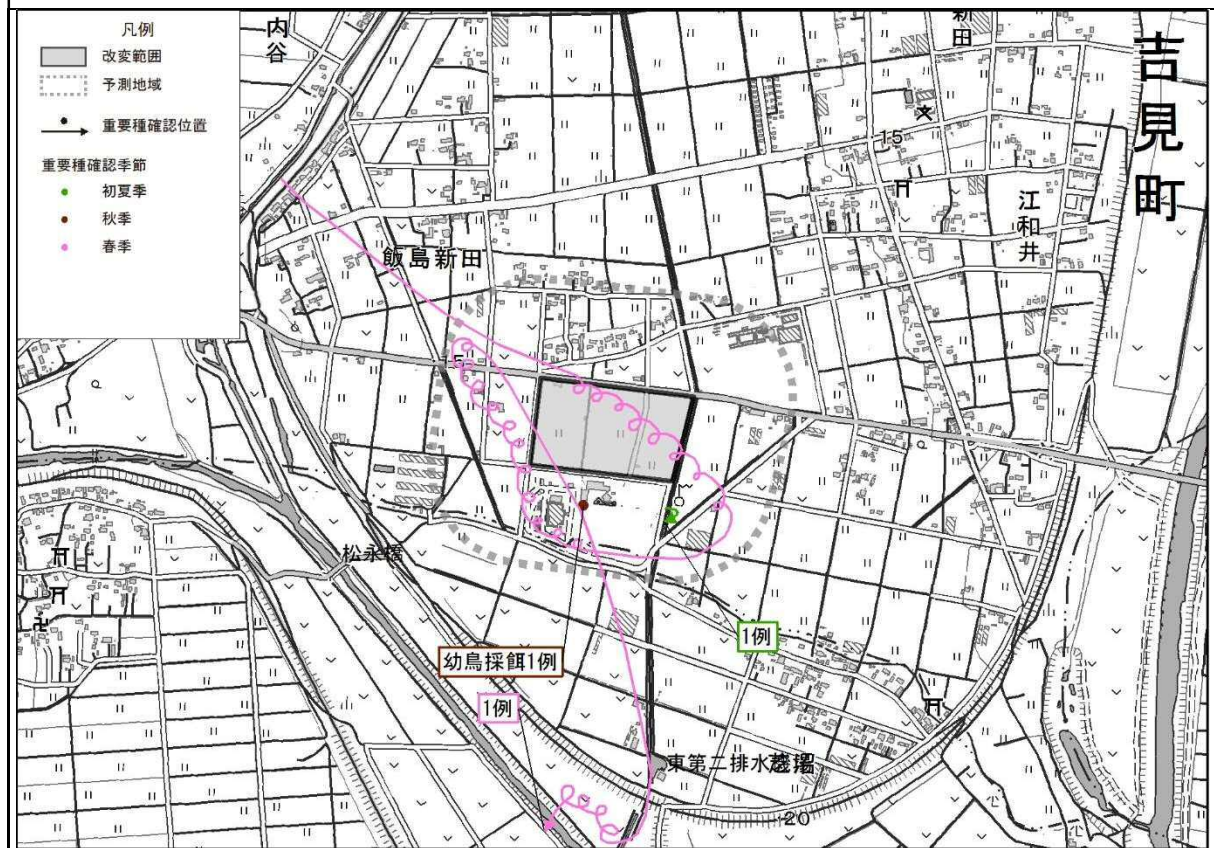


表 9.9-29 重要な種の予測結果(ノスリ)

項目		内容	
主な生息環境		山地の森林や岩壁で繁殖するが、低地での繁殖確認が増えている。冬は農耕地、河川敷などの見通しのよい場所でみられる。	
現地確認状況		調査地域上空で飛翔が確認された。初夏季に1例、秋季に2例、冬季に4例が確認された。	
予測結果	工事の実施 土地の 改変	調査地域周辺で確認されたノスリ7例のうち、本事業による計画地上空の飛翔が2例確認された。調査地域に本種の営巣環境となる山地の樹林地や岩壁はないことから、本種は計画地周辺を採餌環境として利用していると考えられる。採餌環境の一部が消失するものの、同様の環境は計画地周辺に十分に広がっており、生息地の縮小は限定的と考えられる。工事中は、騒音・振動といった生息環境の質的変化が生じる可能性があるが、使用重機の配慮により影響は低減されること、周辺に同様の生息環境が広がっていることから、それらの影響は限定的と考えられる。本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。	影響は極めて小さい(C)
	存在・ 供用	施設の 存在	計画地は、本種の採餌環境の一部を改変する計画となっているが、周辺には同様の生息環境が十分に広がっていることから、生息環境は確保され、移動経路の分断も生じないと考えられる。本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。

確認位置

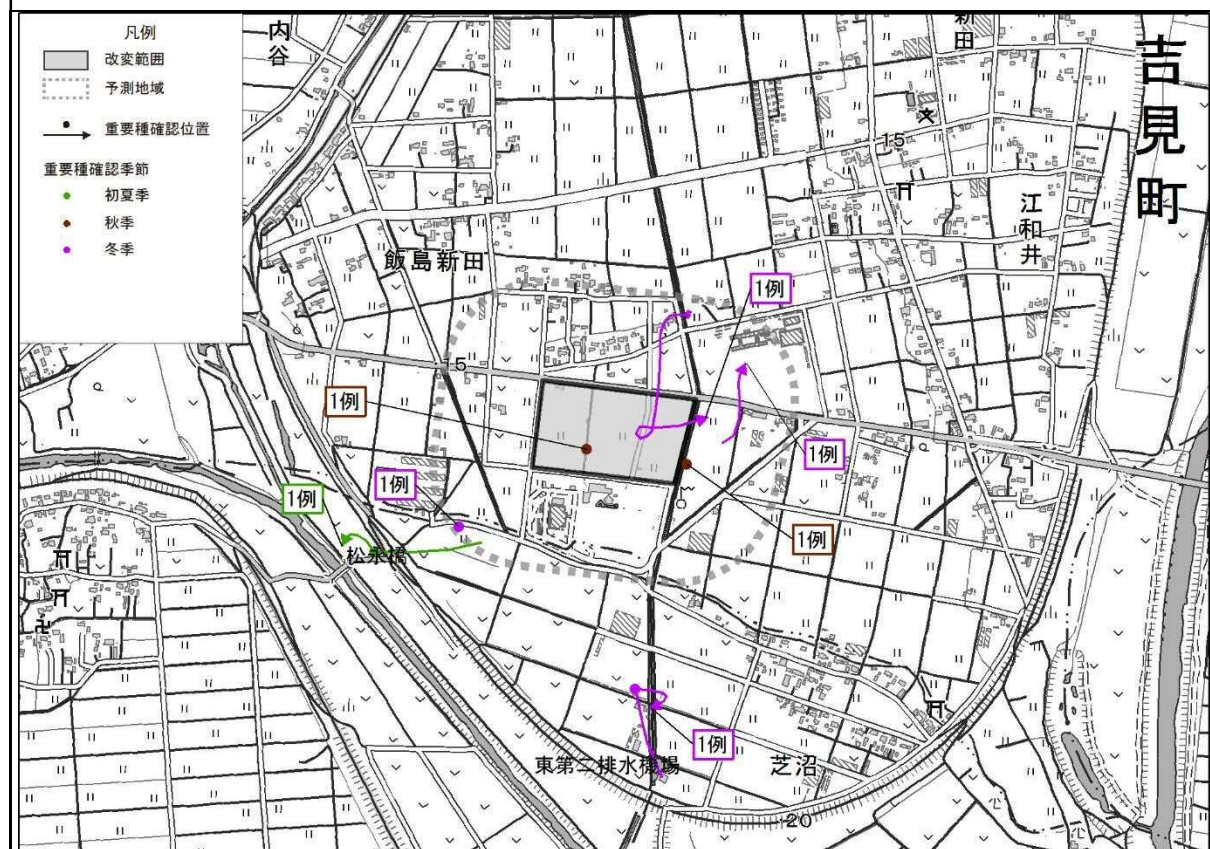


表 9.9-30 重要な種の予測結果(チュウビ)

項目		内容		
主な生息環境		平地の河川、湖沼、農耕地、草地、干拓地、ヨシ原などに生息する。		
現地確認状況		調査地域上空で、春季に1例の飛翔が確認された。		
予測結果	工事の実施	土地の 改変	調査地域周辺で確認されたチュウビは1例で、本事業による計画地上空での飛翔は確認されなかった。本種は冬鳥として渡来し、計画地周辺を採餌環境として利用していると考えられる。採餌環境の一部が消失するものの、同様の環境は計画地周辺に十分に広がっており、生息地の縮小は限定的と考えられる。 工事中は、騒音・振動といった生息環境の質的变化が生じる可能性があるが、使用重機の配慮により影響は低減されること、周辺に同様の生息環境が広がっていることから、それらの影響は限定的と考えられる。 本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。	影響は極めて小さい(C)
	存在・供用	施設の 存在	計画地は、本種の採餌環境の一部を改変する計画となっているが、周辺には同様の生息環境が十分に広がっていることから、生息環境は確保され、移動経路の分断も生じないと考えられる。本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。	影響は極めて小さい(C)

確認位置

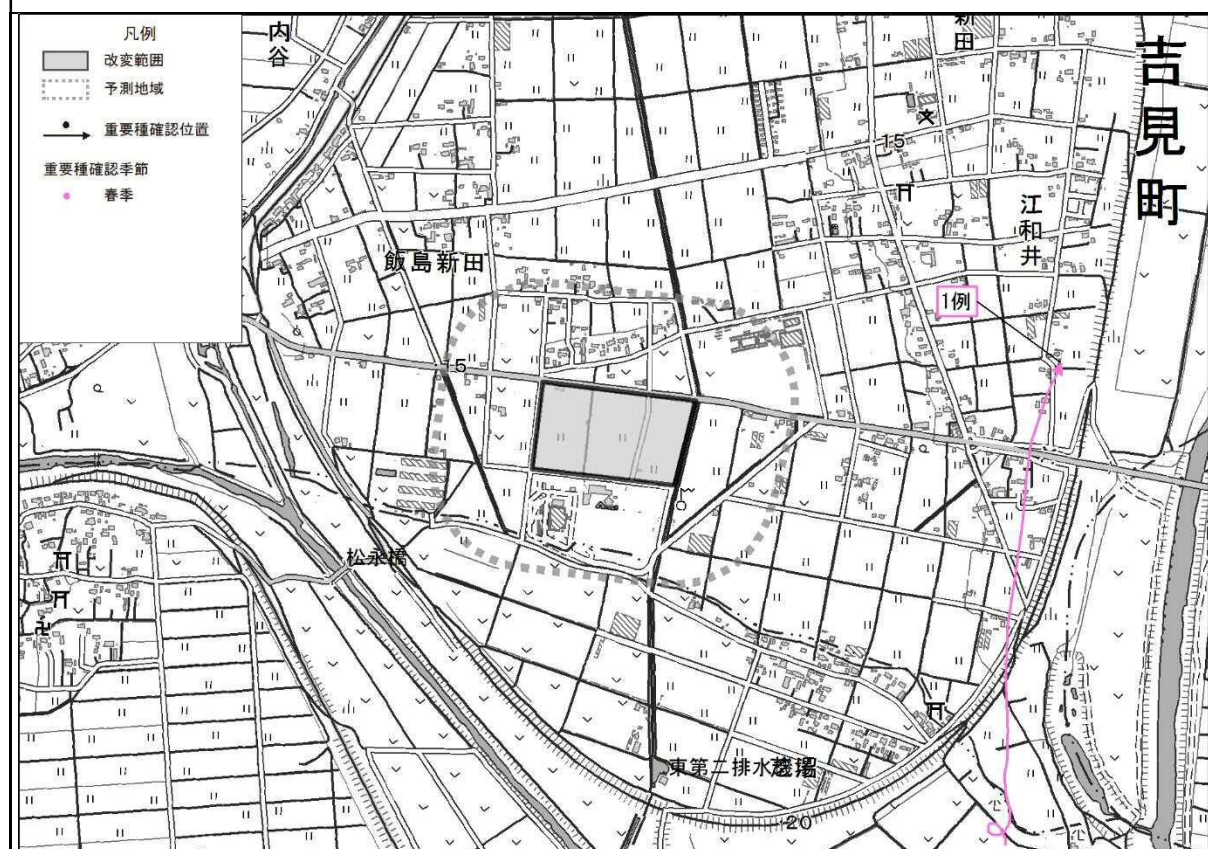


表 9.9-31 重要な種の予測結果(チョウゲンボウ)

項目		内容	
主な生息環境		本来の営巣地は絶壁等のくぼみである。採食環境として原野や草地等の開けた場所を好む。	
現地確認状況		調査地域上空で飛翔及び餌運び(秋季 10月に1例)が確認された。初夏季に2例、秋季に5例、冬季に2例が確認された。	
予測結果	工事の実施	土地の 改変	調査地域周辺で確認されたチョウゲンボウ9例のうち、本事業による計画地上空の飛翔が1例確認された。繁殖に関わる行動は確認されなかったものの、調査地域周辺には、本種の営巣環境となる農耕地周辺の人工構造物の棚状の部分や橋桁等が存在する。本種は、改変範囲を採餌環境として利用していると考えられる。採餌環境の一部が消失するものの、同様の環境は計画地周辺に十分に広がっており、生息地の縮小は限定的と考えられる。 工事中は、騒音・振動といった生息環境の質的变化が生じる可能性があるが、使用重機の配慮により影響は低減されること、周辺に同様の生息環境が広がっていることから、それらの影響は限定的と考えられる。 本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。
	存在・ 供用	施設の 存在	計画地は、本種の採餌環境の一部を改変する計画となっているが、周辺には同様の生息環境が十分に広がっていることから、生息環境は確保され、移動経路の分断も生じないと考えられる。本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。

確認位置

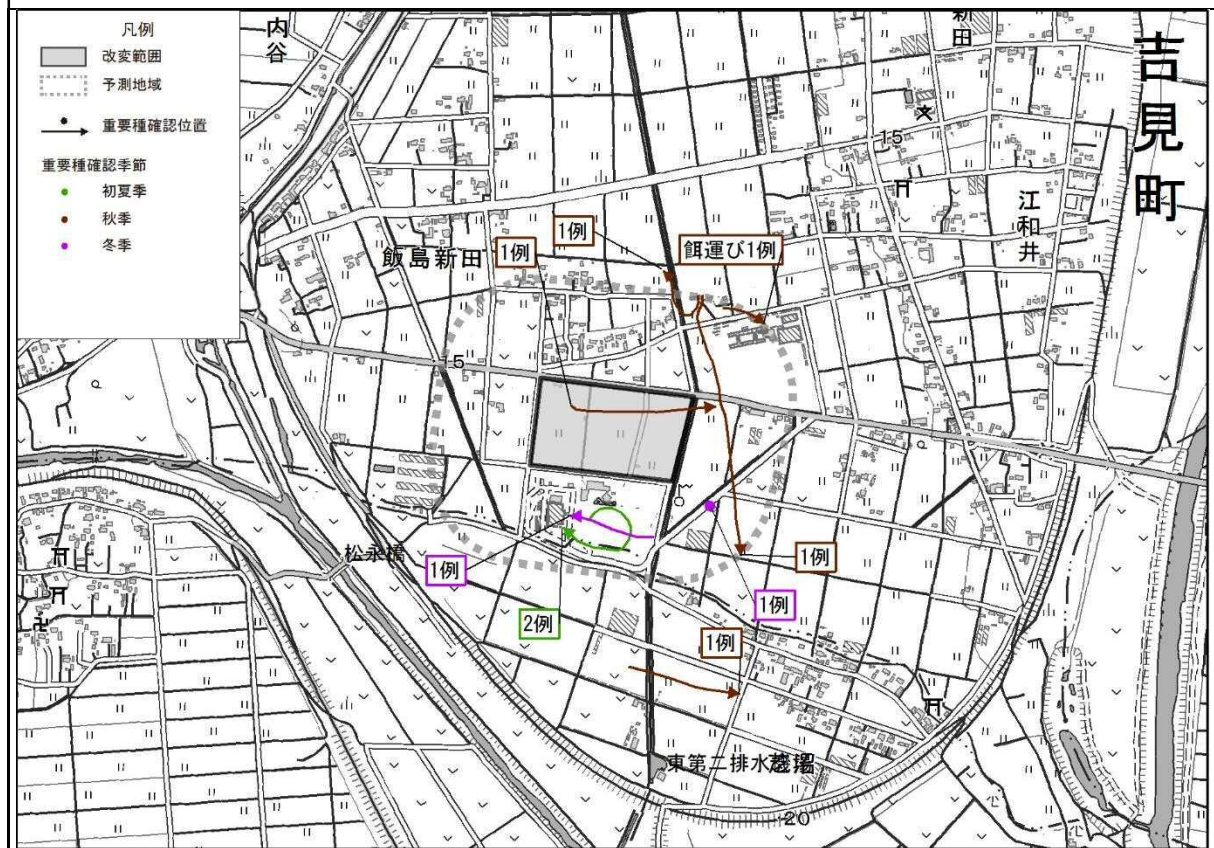


表 9.9-32 重要な種の予測結果(タゲリ)

項目		内容	
主な生息環境		水田、谷津田、畑、河川、牧草地、干潟などに生息する。	
現地確認状況		水田周辺の草地環境で冬季に2例が確認された。	
予測結果	工事の実施 土地の 改変	<p>調査地域周辺で確認されたタゲリは2例で、本事業による計画地内では確認されなかった。本種は冬鳥として渡来し、計画地周辺を冬季の採餌環境として利用していると考えられる。採餌環境の一部が消失するものの、同様の環境は計画地周辺に十分に広がっており、生息地の縮小は限定的と考えられる。</p> <p>工事中は、騒音・振動、濁水等の流入といった生息環境の質的变化が生じる可能性があるが、使用重機の配慮、適切な濁水・排水対策により影響は低減されること、周辺に同様の生息環境が広がっていることから、それらの影響は限定的と考えられる。</p> <p>本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。</p>	影響は極めて小さい(C)
	存在・ 供用	施設の 存在	<p>計画地は、本種の採餌環境の一部を改変する計画となっているが、周辺には同様の生息環境が十分に広がっていることから、生息環境は確保され、移動経路の分断も生じないと考えられる。本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。</p>

確認位置

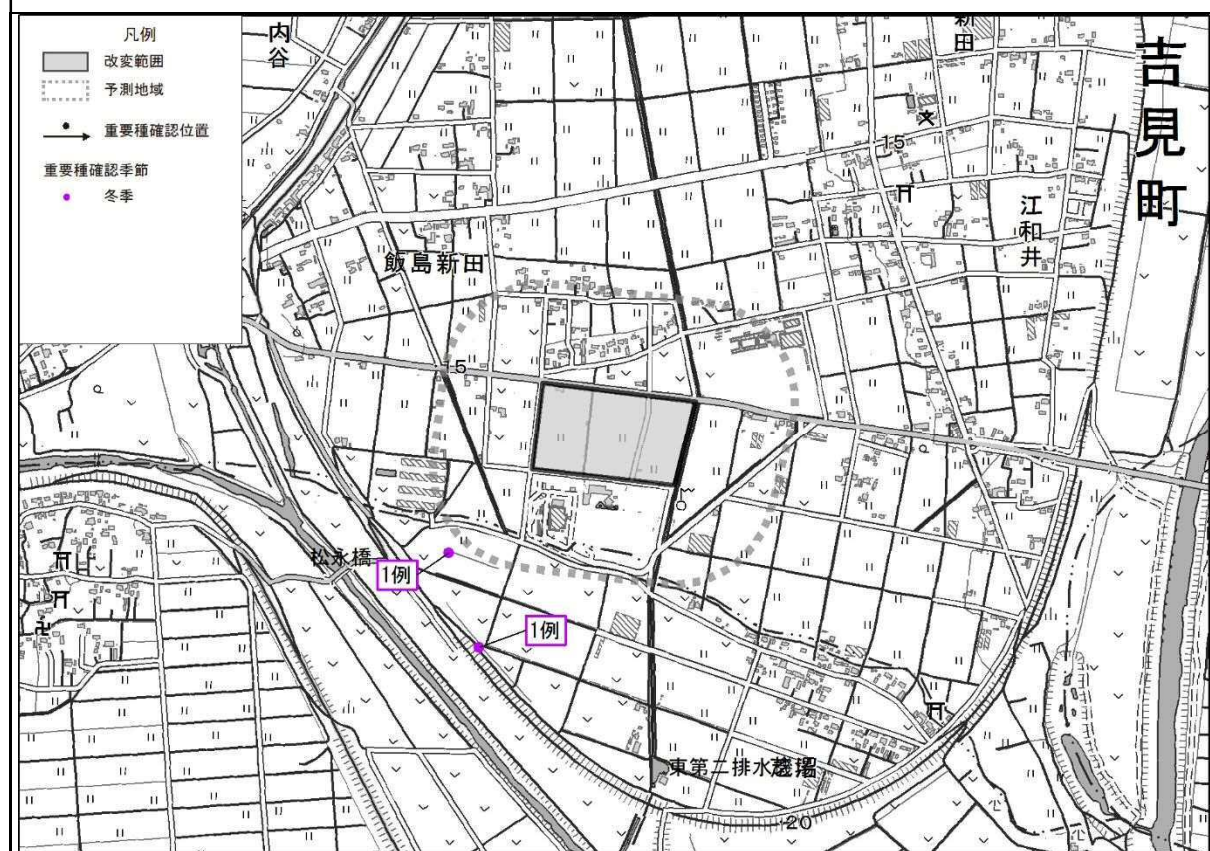


表 9.9-33 重要な種の予測結果(イソシギ)

項目		内容	
主な生息環境		河川、湖沼、海岸、干潟、河口などに生息する。	
現地確認状況		水田周辺で秋季に1例が確認された。	
予測結果	工事の実施 土地の 改変	<p>調査地域周辺で確認されたイソシギは1例で、本事業による計画地内では確認されなかった。本種は主に荒川で繁殖しており、計画地周辺を採餌環境として利用していると考えられる。採餌環境の一部が消失するものの、同様の環境は計画地周辺に十分に広がっており、生息地の縮小は限定的と考えられる。</p> <p>工事中は、騒音・振動、濁水等の流入といった生息環境の質的变化が生じる可能性があるが、使用重機の配慮、適切な濁水・排水対策により影響は低減されること、周辺に同様の生息環境が広がっていることから、それらの影響は限定的と考えられる。</p> <p>本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。</p>	影響は極めて小さい(C)
	存在・ 供用	施設の 存在	<p>計画地は、本種の生息環境の一部を改変する計画となっているが、周辺には同様の生息環境が十分に広がっていることから、生息環境は確保され、移動経路の分断も生じないと考えられる。本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。</p>

確認位置

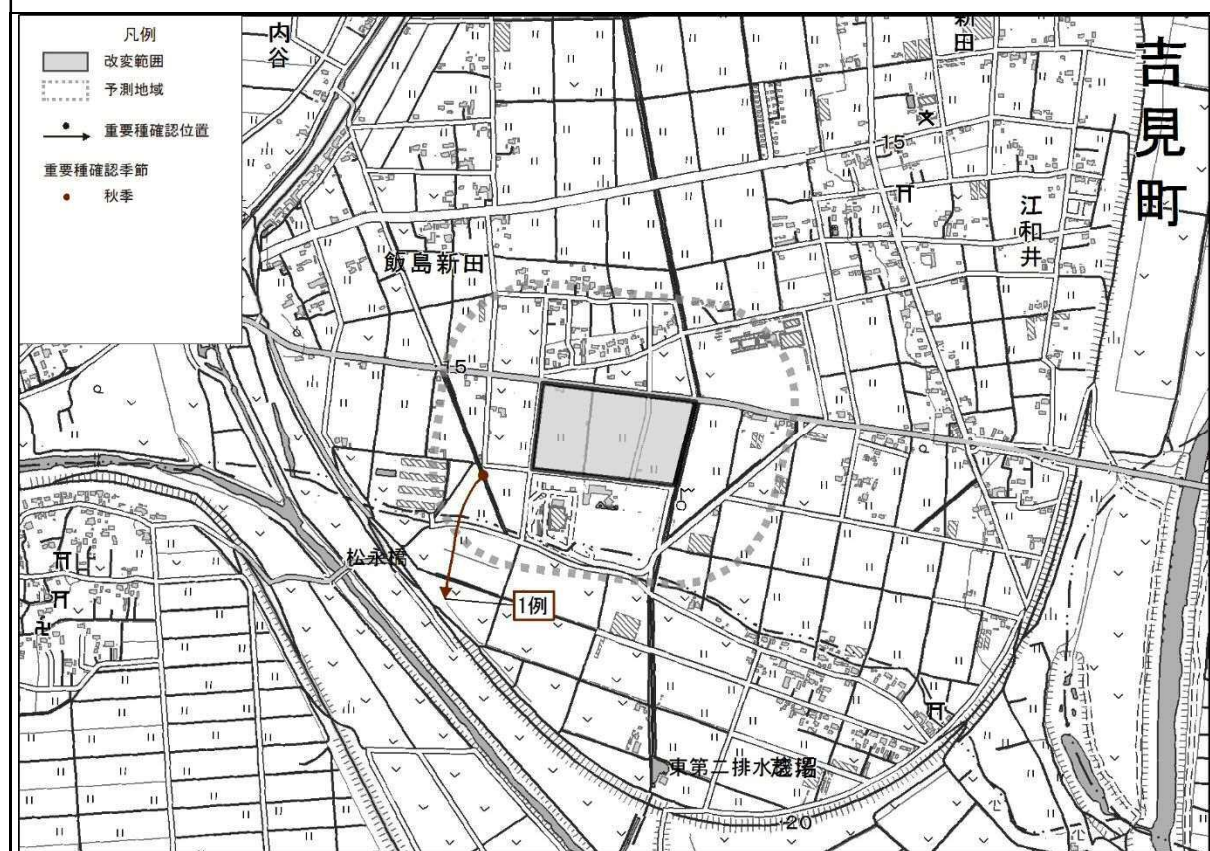


表 9.9-34 重要な種の予測結果(カッコウ)

項目		内容	
主な生息環境		河川、湖沼、海岸、干潟、河口などに生息する。	
現地確認状況		樹林地で春季に囀り1例が確認された。	
予測結果	工事の実施 土地の 改変	<p>調査地域周辺で確認されたカッコウは1例で、本事業による計画地内では確認されなかった。本種は、調査地域周辺には、托卵相手となるオオヨシキリやホオジロの繁殖環境となるヨシ原はあるものの、小規模であり、主な繁殖環境は市野川周辺と考えられる。生息環境の一部が消失するものの、同様の環境は計画地周辺に十分に広がっており、生息地の縮小は限定的と考えられる。</p> <p>工事中は、騒音・振動といった生息環境の質的变化が生じる可能性があるが、使用重機の配慮により影響は低減されること、周辺に同様の生息環境が広がっていることから、それらの影響は限定的と考えられる。</p> <p>本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。</p>	影響は極めて小さい(C)
	存在・ 供用	施設の 存在	<p>計画地は、本種の生息環境の一部を改変する計画となっているが、周辺には同様の生息環境が十分に広がっていることから、生息環境は確保され、移動経路の分断も生じないと考えられる。本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。</p>

確認位置

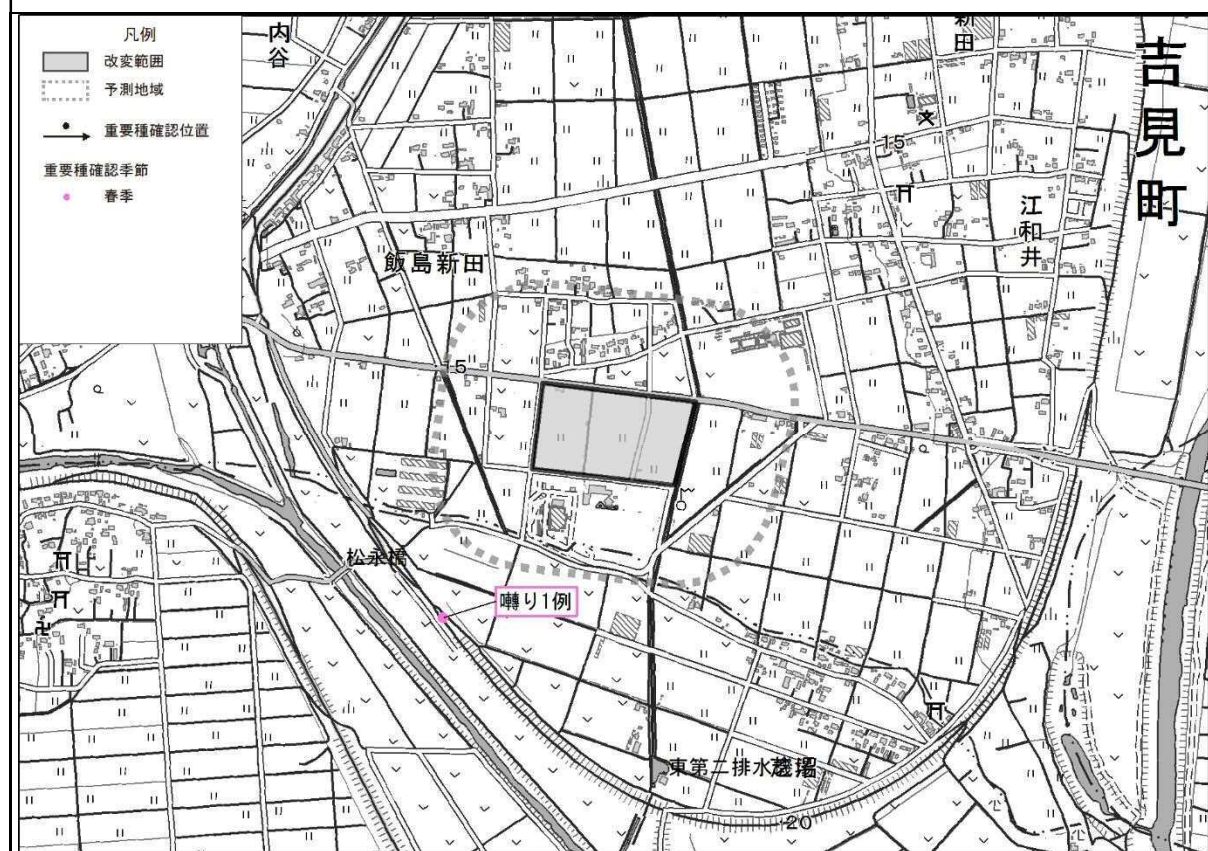


表 9.9-35 重要な種の予測結果(カワセミ)

項目		内容	
主な生息環境		河川、湖沼、小川、用水、などの水辺。	
現地確認状況		水路周辺で秋季に飛翔 3 例及び餌運び 1 例が確認された。	
予測結果	工事の実施 土地の 改変	調査地域周辺で確認されたカワセミは 4 例で、本事業による計画地内では確認されなかった。本種は調査地域周辺の河川や水路などの水辺を生息・繁殖環境として利用していると考えられ、本種の主な生息環境は計画地外である。 工事中は、水路への濁水等の流入といった生息環境の質的変化が生じる可能性があるが、適切な濁水・排水対策により影響は低減されることから、それらの影響は限定的と考えられる。 本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。	影響は極めて小さい(C)
	存在・ 供用	施設の 存在	計画地は、本種の生息環境を改変しない計画となっており、生息環境は確保され、移動経路の分断も生じない。また、施設からの排水は濁水処理等を行う為、水質への影響は低減され、生息環境の質的変化も生じないと考えられる。本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。

確認位置

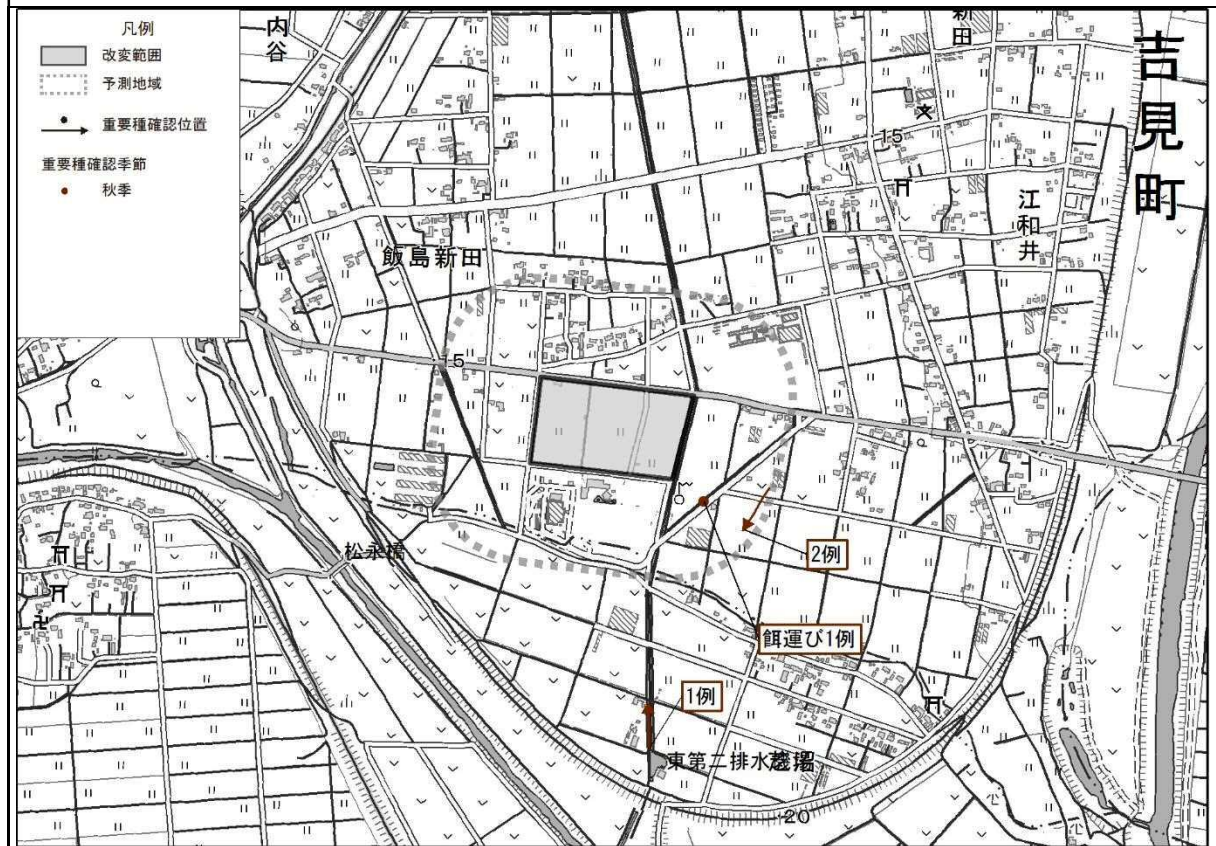


表 9.9-36 重要な種の予測結果(オオヨシキリ)

項目		内容	
主な生息環境		河川、湖沼、休耕田等のヨシ原。	
現地確認状況		草地周辺で初夏季に囀り 1 例、春季に囀り 4 例が確認された。	
予測結果	工事の実施 土地の 改変	調査地域周辺で確認されたオオヨシキリ 5 例のうち、本事業による計画地内で確認されたのは 1 例である。本種は調査地域周辺で囀りが確認されており、調査地域周辺の小規模なヨシ原を繁殖環境として利用している可能性があるが、主な繁殖環境として利用しているのは市野川周辺と考えられる。生息環境の一部が消失するものの、同様の環境は計画地周辺に十分に広がっており、生息地の縮小は限定的と考えられる。工事中は、騒音・振動といった生息環境の質的変化が生じる可能性があるが、使用重機の配慮により影響は低減されること、周辺に同様の生息環境が広がっていることから、それらの影響は限定的と考えられる。本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。	影響は極めて小さい (C)
	存在・ 供用	施設の 存在	計画地は、本種の生息環境の一部を改変する計画となっているが、周辺には同様の生息環境が十分に広がっていることから、生息環境は確保され、移動経路の分断も生じないと考えられる。施設の存在による、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。

確認位置

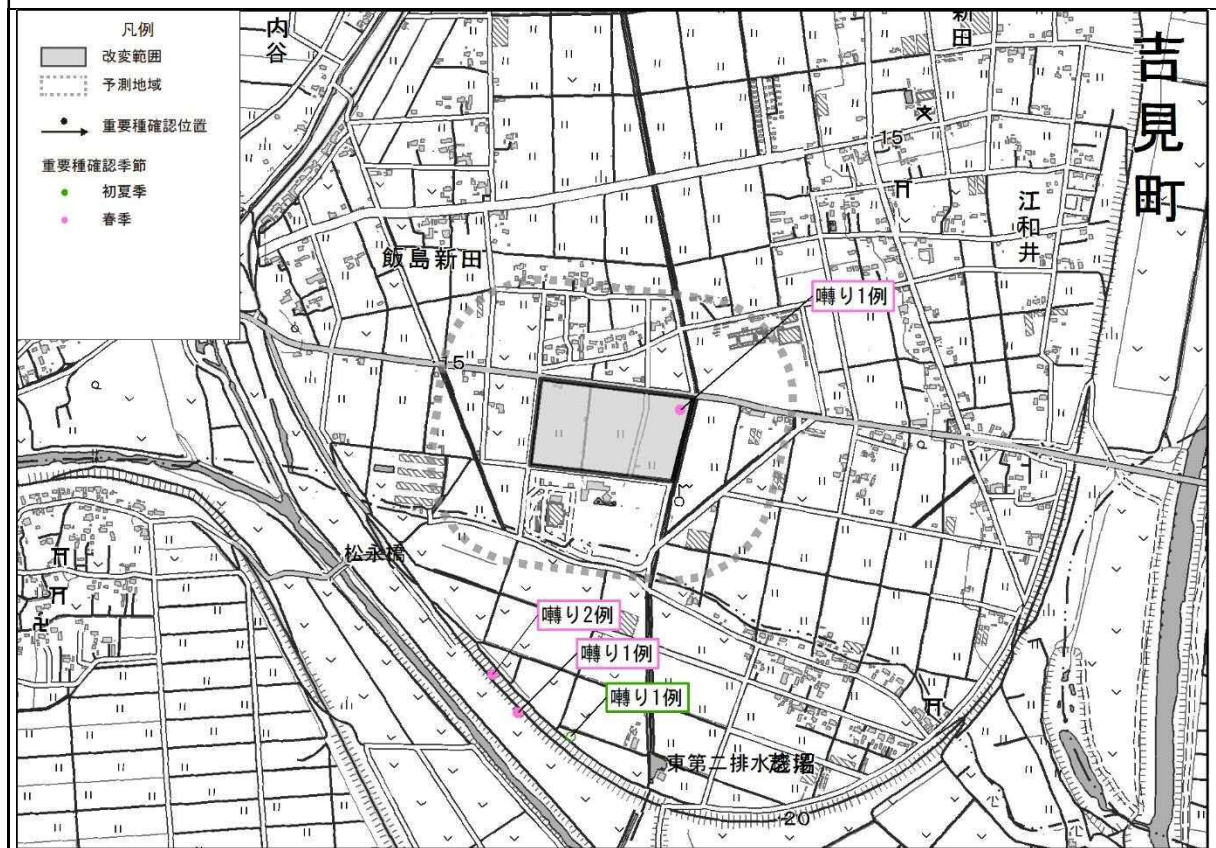


表 9.9-37 重要な種の予測結果 (ホオジロ)

項目		内容		
主な生息環境		林縁の藪、植木畑周辺、河川敷の灌木等で繁殖する。冬は河川敷等で草本類の種子を採食する。		
現地確認状況		耕作地や草地周辺で地鳴きや囀りが確認された。初夏に2例、秋季に2例、冬季に9例、春季に2例が確認された。		
予測結果	工事の実施	土地の 改変	調査地域周辺で確認されたホオジロ 15 例のうち、本事業による計画地内で確認されたのは 1 例である。本種は調査地域周辺で囀りが確認されており、調査地域周辺の小規模なヨシ原を繁殖環境として利用している可能性があるが、主な繁殖環境として利用しているのは市野川周辺と考えられる。生息環境の一部が消失するものの、同様の環境は計画地周辺に十分に広がっており、生息地の縮小は限定的と考えられる。工事中は、騒音・振動といった生息環境の質的变化が生じる可能性があるが、使用重機の配慮により影響は低減されること、周辺に同様の生息環境が広がっていることから、それらの影響は限定的と考えられる。本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。	影響は極めて小さい (C)
	存在・供用	施設の 存在	計画地は、本種の生息環境の一部を改変する計画となっているが、周辺には同様の生息環境が十分に広がっていることから、生息環境は確保され、移動経路の分断も生じないと考えられる。施設の存在による、本種の生息環境への影響は極めて小さいと予測される。	影響は極めて小さい (C)

確認位置

